サラリーマンと文化住宅

金子さんちの今夜のおかずは何かな

昭和 10 年（1935）頃の落合で、借家住まいをしている若いサラリーマンの家をのぞいてみましょう。そろそろ夕暮れ時です。

この文化住宅に住んでいるのは、地方から出てきた大学出のサラリーマンとその家族です。夫婦はまだ30代前半で、幼い子供が二人います。丸の内に勤めるお父さんは、通勤で新宿駅を利用し、月給は100円です。その中からこの借家に毎月家賃を 18 円ぐらい払い、食費には 30 円ほどかけています。お茶の間から聞こえてくるラジオは、当時大人気の広沢虎蔵の浪曲『石松と三十石船』と、神宮球場における早稲田対慶応の大学対抗野球の実況中継です。ラジオ放送は大正 14 年（1925）に始まりました。

広がる郊外の住宅地

大正の末から昭和の初めにかけて、当時はまだ郊外であった山手線の西側にサラリーマンのための住宅が次々と建ち始めていました。

それはこの時期に新宿・渋谷・池袋などを起点とした郊外電車の交通網が形成され、それに合わせて鉄道会社が沿線の宅地開発を進めたためです。関東大震災で被害の大きかった下町の人々や、地方から東京へやってきた新市民が、すでに住宅不足で飽和状態だった旧市域（ 東は本所・深川から西は山手線の内側あたりまで ）から、新しい住宅を求めてその郊外の沿線に住み移っていきました。その頃開発された住宅地に、目白文化村や田園調布、大泉学園、成城学園、国立などがあります。これらの住宅地には、本格的な洋風住宅が多く建てられていました。それらは、ちょうどその当時の大正デモクラシーの高揚を背景にした、生活の洋風化と合理化を進める生活改善の動きを反映したものでした。

あこがれの文化住宅

そうした住宅にあこがれた人々が、せめて一部屋だけでもと、小さな和風住宅に洋風の応接間をつけたのが「文化住宅」です。それらは、大体取って付けたように玄関のすぐ脇の外からよく見える位置につけられていました。当時のサラリーマンにとっては、こうした赤や青の洋瓦をのせた洋間のある家は、ひとつのステイタスシンボルでもあり、若い世代には憧れの的でした。近郊の地主たちも盛んに農地をけずっては、文化住宅の貸家を建てていきました。こうした和洋折衷の住宅は、大工が見様見まねで造ったものでした。その頃の『建築画報』（ 第 21 巻第 4 号昭和 5 年（1930）4 月 ）の「文化住宅」という記事に、文化住宅を建てようとしている主人に何故西洋間をつけるのかを尋ねてみると、大工が「まあ今は誰方も西洋間の一室位おつけになりますから」と言うので、それをそのまま採用したような返答があります。また、同じ上の記事に「試みに郊外を散歩した時今建つ小さな住宅を見てごらんなさい。この西洋間應接間の附いてゐない家はないといふてもいい事をみられるだらうと思ひます。」とあり、その流行ぶりが想像されます。

文化住宅外観

サラリーマンの生活

では、文化住宅での生活ぶりはどのようなものだったのでしょうか。

まず洋間は、来客の時にだけ使い、そこへ子どもたちが勝手に入って遊んだりはできませんでした。また、ふすまと障子だけで区切った田の字型の住宅に変わって、「中廊下式」の住宅が多くなりました。中央に廊下を挟んでその両側に部屋が並ぶので、個々の独立性が高まり、お客様に家の内部を見せずに応接間まで通せます。しかし、食事をする部屋で夜は寝るなど、まだ完全な専門分化はしていません。台所は座り流しから立ち流しになり、地域によっては水道やガスが通じ始めました。

食事もこの頃から、カレーやコロッケ、パンなどの洋食が少しずつ食卓に上るようになります。そして洋服も、サラリーマンの仕事着として定着し、また子供には外出着用に買ったり、普段着をミシンで作ったりするようになりました。しかし、普通の主婦は、なかなか洋服を取り入れるようにはなりませんでした。このように普段の生活の基本は、相変わらずの和式の生活でした。

そのふところ具合は？

ところで、この復元された文化住宅に住んでいると想定された月収を 75 円から 100 円もらっている当時の「銀行・会社員」の家計では、遊びに使えるお金である「修養娯楽費」は月々平均 7 円（昭和 11 年(1936)統計）でした。この「7 円」というのは、どの位の価値があったのでしょう。当時白米 10kg が 2 円 50 銭の時代です。修養娯楽費には、新聞代〈月額 90 銭〉やラジオ放送受信料〈50 銭〉も含まれています。たとえばサラリーマンに人気のあった月間雑誌『キング』〈50 銭〉や『改造』〈80 銭～ 1 円〉を買ったり、新宿武蔵野館の洋画〈50 銭〉やムーラン・ルージュ〈割引時間 35 銭〉を見に行き、喫茶店でコーヒーを一杯〈15 銭〉飲むと、合計 4 円近くになります。月平均金額の 7 円の半分に当たります。皆さんの財布の具合と比べてみてください。いかがでしょうか？

この頃から休日に家族そろってデパートへ買い物に行ったり、私鉄沿線の遊園地に出かけたりするようになりました。このようにして、現在のようなサラリーマン生活の原型が、この頃からできあがっていきました。

サラリーマンの出勤スタイル

金子家の食卓